

輸出事業計画

※申請者名：(有)大塚園、品目：有機碾茶

1. 輸出における現状と課題

【現状】

弊社は有機栽培の煎茶を中心に茶づくりを行っている。

有機JAS認証、JGAP認証の取得により環境負荷低減型農業を行い、持続性の高い経営を展開している。

これまで煎茶を中心に輸出に取り組んできたが、近年、海外での抹茶ブームをきっかけに抹茶の要望が多くなっている。

【課題】

海外で日本食が見直され、富裕層を中心に健康志向の高まりから抹茶ブームとなり、嗜好品での市民権を得ている状況である。

しかし、輸出国全てにあわせた栽培体系で生産された有機JAS認証の碾茶が不足している。

2. 輸出事業計画の取組内容

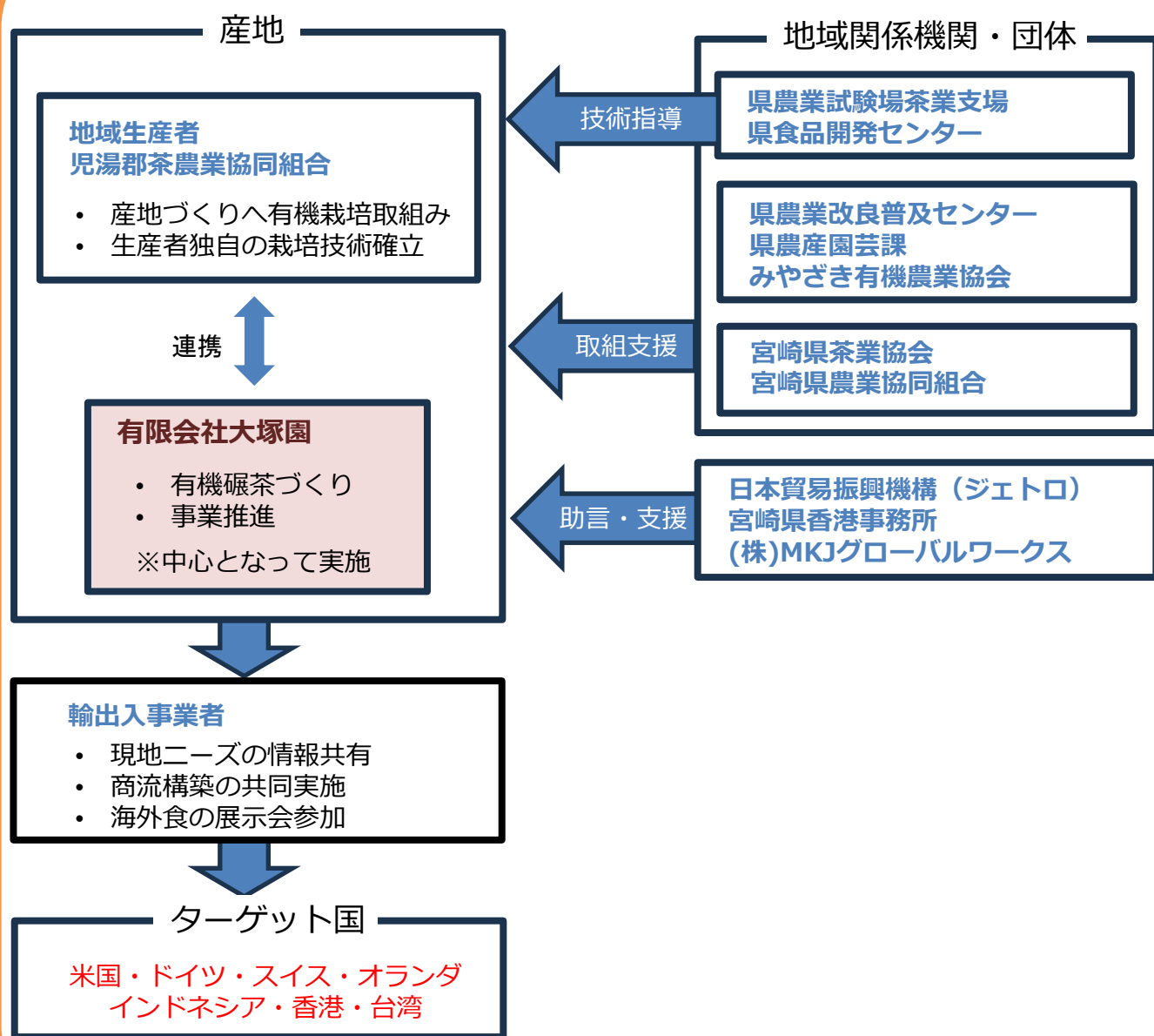
①碾茶生産加工施設の整備

有機栽培体系の碾茶を加工する施設整備を行うことで、海外抹茶需要に対応できる生産体制強化を図り、輸出拡大に取り組む。

②販売・流通の取組み

- ・ 現地バイヤーと緊密に連携し、現地消費者の嗜好傾向や包装容器等の調査を行う。
- ・ 製品の保管方法、保管場所など産地に負担がかからない商流体制を輸出業者と協議する。
- ・ 輸出業者、ジェトロ、現地バイヤーの協力を得て、書面作成への確実な対応やプロモーション活動等を実施する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

		現状（令和5年） （令和5年1月～ 令和5年12月）	目標年（令和10年） （令和10年1月～令和10年12月）	備考
児湯地区	輸出額(千円)	0	43,000	
	輸出量 (kg)	0	46,300	
	輸出先国		米国、ドイツ、スイス、オランダ、インドネシア、香港、台湾	
	生産量 (kg)	0	56,330	